



学校だより

令和4年8月26日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

2学期を迎えて

1学期終業式の朝、交通指導員の保さん、石塚さんのお二人が1学期終了の報告にお見えになりました。今年から交通指導員となられたお二人は、慣れない仕事に御苦労も多かったと思うのですが、「子どもたちが『1学期間有難うございました』と、挨拶と共に感謝の言葉を言ってくれたので、とても元気ができました」と、嬉しそうに話をしてくださいました。新年度開始から、代表委員会の児童を中心に、主体的に始まったあいさつ運動。この輪が、校内だけでなく地域にも広がってきていることの喜びを代表委員の子どもたちと共有し、お二人に感謝を伝えました。1年間で最も長い2学期は、友達を始め様々な人々と多くの関わりがあると思います。その関わりを豊かにする基本が『挨拶』であり、いつでも、どこでも、誰とでも、子どもたちが主体的に挨拶をし、他者との豊かな関わりの中で、よりよい2学期にしてほしいと願っています。

皆様御承知の通り、本校は昨年度から道徳教育を学校経営の中心に据えております。これを聞いて「心のきれいな子たちばかりなのでしょうね」と言う方もいらっしゃいます。もちろん本校には優しい子が数多くおりますし、きれいな心のもち主を育てるために尽力しております。また、まずは私自身がそうありたいとも願っています。しかし、そう簡単にいかないのが人間です。それは人間なら誰も、よりよく生きたいという「気高い心」と、自己本位だったりよりよい生き方をあきらめてしまったりする「弱い心」をもち合わせているからです。そし

校長 藤澤 美智子

て、この「弱い心」が人間の心から無くならない（無くなりづらい）ものだからです。これは私自身が自らを振り返り、強く感じていることでもあります。では、道徳教育など無駄なののでしょうか。決してそうではないと思います。それは、道徳教育には、子どもに夢をもたせ「よりよく生きたい」という思いを膨らませていく役割があるからです。この「よりよく生きたい」という思いこそ、弱い心に打ち勝つ原動力になります。

また、人間の「弱い心」（欲望）が無くならないからといってそのまま放置したら、我儘で奔放な人間が育ち、社会全体が立ち行かなくなります。道徳教育は、この「弱い心」（欲望）をコントロールする心（自律心）を育てるという大切な役割も担っています。子どもたちの中には、「弱い心をもっているのは自分だけでは」と悩んでいる子もいるかもしれません。だからこそ「弱い心」は誰もがもっているということ、と同時に「弱い心」を乗り越える力やコントロールする心（自律心）、よりよく生きたいという「気高い心」を誰もがもち合わせていることを理解させることが大切です。そのために、まず私たちが道徳教育の役割を十分に理解し、子どもたちの幸せのために指導を繰り返していくことが肝要だと考えております。

本校では、子どもたちの主体性ととともに、自律性の育成にも努めてまいります。それが、将来どのようなことに出会っても子どもが自らの力で乗り越えていく糧となると考えております。2学期も何卒、御理解・御協力の程、お願いいたします。